

## 令和5年度 第2回レブンアツモリソウ保護増殖検討会 議事概要

### 1. 概要

(1)日 時:令和6年2月29日(金)14:00~17:00

(2)場 所:WEB 会議(Webex)

(3)出席者:

○検討委員

河原孝行座長、幸田泰則委員、八巻一成委員、志村華子委員、綱本良啓委員

○関係機関

北海道森林管理局計画保全部計画課

宗谷森林管理署

礼文町役場産業課

○オブザーバー

北海道環境生活部自然環境局

礼文しぜん調査

○事務局

環境省自然環境局

北海道地方環境事務所

株式会社地域環境計画

### 2. 議事概要

第一部と第二部に分けて検討会を開催した。第一部は公開で開催し、第二部は詳細な希少種情報の議論等のため非公開で実施した。第一部が終了次第、傍聴の皆様にはご退席の協力をお願いした。

河原委員が座長に選出され、河原座長の議事進行のもと、第一部(公開)の議事1として「各機関からの取組み報告及び次年度の取組み予定について」、議事2として「普及啓発用リーフレットについて」、議事3として「その他」、について議論が行われた。第二部(非公開)の議事1として「各機関からの取組み報告及び次年度の取組み予定について(詳細)」、議事2として「次期(令和8年度~)ロードマップに向けた検討について」、議事3として「その他」、について議論が行われた。

委員からの主な意見、質疑等は、次のとおり。

●第一部(公開)

議事① 各機関からの取組み報告及び次年度の取組み予定について

◆資料 1-1~1-4

(委員)各機関の巡視で、盗掘の有無や踏み込み等の問題点はなかったか。

→巡視では盗掘や踏み込み等は確認されなかった。(環境省)

→礼文島生物群集保護林内においてレブンアツモリソウの盗掘はなかったが、別種の植物で盗掘被害が一件でいた。(林野庁)

→悪意を持って踏み込んだ例はないが、休憩の際に足が少し出た結果として踏み込みになった例を聞いている。(礼文町)

(委員)地球温暖化の影響も含めて、ここ数年、全体としてレブンアツモリソウの生育環境の状況と、環境変化によるその他の高山植物の影響について伺いたい。

→過去の状況を知る方々から、昔とは植生が変化していると伺っている。地球温暖化の影響や住民の生活様式の変化が環境変化に影響していると考えます。(礼文町)

→札幌で行っている増殖株培養では、去年の夏期の暑さでかなりの数が枯れた。(委員)

→雪解けが早くなった影響で芽生えも早くなった分、十年くらい前から遅霜による影響が生じている。ここ2、3年前は不明だが、温暖化の影響があるのではないか。(委員)

(委員)ササの大規模開花による影響は取組みの中で考慮されているか。

→島内のササ枯れ状況の調査を計画しており、その結果はレブンアツモリソウの事業にもフィードバックしたい。(環境省)

→ササが枯れ、リターの堆積が多くなると推定されるため、種子が落ちてでも発芽しにくい状態になる。リターの除去が今年はより重要になるのではないかと。(委員)

(委員)野生復帰試験について、植え戻しの可能性を調べている段階との認識で良いか。

→野生個体が絶滅の危機に瀕した際、培養で増やした株を自然界に導入し、自生地を回復させることが目標であり、そのための準備として培養センターで培養した株を野外に植えて活着試験を行っている。(礼文町)

→すでに株を植えて、活着率を確認している段階か。(委員)

→(資料の1-3)北部の培養株については高山植物園の圃場で植え始めているが、南部については、過去の自生地に植え出しの試験を行っており、活着率をみている。(礼文町)

## 議事② 普及啓発用リーフレットについて

### ◆資料1-5

(委員)トイレの場所を記すことは検討しているか。

→今後ルール・マナーの部分でトイレの使用について紹介するため、地図への記載についても調整したい。(環境省)

(委員) 今回のリーフレットは観光客も対象に含まれているか。

→ 町民の方にこれまでの取組み成果や現状を知っていただくことを主とするが、ウェブページやフェリー乗り場等でも活用したいので、島外の方も対象と考えている。具体的な内容は今後考えていく。(環境省)

→ 島外の方への宣伝も重要である。いつ、どこに行けばレブンアツモリソウが見られるのかといった情報も入れると、良いのではないか。(委員)

(礼文町) 高山植物が観察できる歩道等を紹介することになっているが、ここでレブンアツモリソウが見られる場所だと勘違いをされないように配慮をお願いしたい。

→ 各機関の取組みの一つとしてレブンウスユキソウ群生地等の紹介を想定している。誤解のない記載とする。(環境省)

(委員) 島外の方にレブンアツモリソウを知っていただき、応援団を増やすことが重要になってくる。ウェブ等を活用し島外の方に向けて発信できるようにしていただきたい。

→ これまでの取組みの成果を数字で示したいと考えている。例えば3,000だった開花数が約5,000になっている等。委員の皆様にはデータ等について相談させていただく。(環境省)

議事③ その他

◆ 特に発言はなし。

---

第一部(公開)は以上

●第2部(非公開)

議事① 各機関からの取組み報告及び次年度の取組み予定について(詳細)

◆(資料 2-1~2-3)

(委員)(資料 2-2)レブンアツモリソウの群生地モニタリングでの環境整備はトドマツの整備か。整備した上で生育数が増加していないことをどう捉えるべきか。

→過去に枝打ちをした箇所をプロットしたため、新たに下刈り等をしたという事ではない。礼文島生物群集保護林に設定されており、自然の推移を見守っていくため、上層部の伐採等は考えていない。(林野庁)

→保護林だが、過去に保護目的をレブンアツモリソウとしてトドマツの枝打ちをしたが、今後の対策はどのように考えているか。(委員)

→歩道沿いの刈り払いが継続しているが、保護区が歩道にかかっている場合は、刈り払いはできないのか。(委員)

→ササの刈り払いは小面積であることと試験的に調査するという意味合いで保護林に対する影響は軽微と判断している。(林野庁)

→昔は奥の方でも広くレブンアツモリソウが分布していたが、現在はススキやササが覆っているため、刈り払い範囲を広げてはどうか。(委員)

→現段階では考えていない。保護林内にササが広く分布していたので、小面積であれば刈り払いの影響は小さいと判断した。刈り払うことでレブンアツモリソウが増えたとしても、保護林の趣旨を踏まえて自然の推移に任せていく。(林野庁)

→保護林の趣旨を逸脱しない範囲で、生育地をどう保全するか考えていくことが重要である。随時、委員会で議論していくべきではないか。(委員)

→桃岩でも試験的にササの刈り払いを行っている。将来的には高山植物を保護するため大きく刈り払いたいと考えているが、保護林だとできないのか。協議会や検討会の中で合意を得られれば、刈ることができるとの認識で合っているか。

(礼文町)

→レブンアツモリソウは、増殖事業として連携して行っているため、事業の範囲内で問題ないところであればできるものと考えている。しかし、保護林に関しては北海道森林管理局保護林管理委員会があるため、規模によっては委員会の意見を聞いた上での範囲内になる。(林野庁)

(委員)(資料 2-1)8年間開花していない箇所もあるため、開花する個体を選抜する方法が次の問題になるのではないか。

→場所によって開花できない個体や成長が遅くて開花しないこともあるため、絶対に開花しないということはないだろう。(委員)

→栽培時は、肥料や水、日光があるにも関わらず、成長が遅く開花しない個体もいることから、内在的な理由があるのではないか。(委員)

(委員)最終的には新しい個体に更新していく事が大事だが、新しい個体は入ってきているのか。

→生育地では明らかに小さい個体が生えているが、生育数が増加するために十分な個体数なのかはわからない。(礼文町)  
→実生もあるということで安心した。(委員)

(委員) 個体ごとにマーキングして増減を調べた中で、実生がたくさんあるところでも徐々に数が減少した。個体としては成熟するが、同じ場所には実生が発生しない。共生菌との調査でも必ずしも花の根元に種子を植えても発芽しないことから、同じ場所ではなく、各所を移ろいながら生活史を回しているのではないかと考える。  
→モニタリングの調査地はたくさん生えているところなので、徐々に衰退していき、別の場所で増えていけば帳尻が合う事が本来なのだろう。(委員)  
→以前と比べ実生が見つけにくくなっている気がする。全体として、花はたくさんあるが今後衰退していく事を懸念している。そのためには攪乱環境も作っていく事が重要ではないか。(委員)  
→本来一か所に固まって生育しているわけではないため、攪乱された場所が必要だが、そういった場所が少ない。そのため、今ある自生地でも新しい実生が必要ではないか。(礼文町)  
→乾燥化によってササやススキが増加し、自然的攪乱が少ないため、人為的に攪乱することが個体群を回していくため必要だと考える。現在は試験的にササ刈りを行っているが、大規模なかき起しや地かきをやると実生が出てくるかもしれない。以前、重機が入り攪乱されたことによって、実生が発生したことがあった。(委員)  
→人為的攪乱が減ってきているため、試験レベルでも攪乱を意識した取組みも進めていく事が大事ではないか。(委員)  
→次の議題のロードマップでご意見をいただきたい。(環境省)

(委員) (資料 2-1) 気温上昇や雨量減少によって、3～4枚葉が、減少したと考察されているが、葉の枚数は冬芽のうちから決まっている。影響を受けるとするならば 2・3枚葉にも違いが出る。4枚葉については、翌年に開花した個体が増加している。ステージが開花に上がったため、減少したと考える。  
→今後はその様な視点も含めて考察する。(環境省)

議事② 次期(R8年度～)ロードマップに向けた検討について

◆資料 2-5

(委員) (資料 2-5) ゾーニングの保全優先度において、攪乱の必要性も検討いただきたい。  
→積極的に手を入れるところや保護林のように自然の推移を見守るところをゾーニングしたいと考えている。攪乱等についても検討していきたい。(環境省)

(礼文町) 手をかける可否について、衰退しているものを見守るという考えが保護増殖としてはどうなのか。

→礼文島全体の生育状況を見ながらの判断となり、保護林だから絶対にできないという事ではないと考えている。それまではレブンアツモリソウの生育地だった範

困が、生物群集保護林という事でレブンアツモリソウに限らず、森林生態系の動植物を守っていく事になったとご理解いただきたい。(林野庁)

→レブンアツモリソウは必ずしも同じ場所に定着しているわけではなく、過去にも、何もなかったところから広がった事例もあるため、必ずしも固定されたゾーニングにはならないと考える。例えばかつての保護林では生育していたが老熟期になってまばらになっている事も自然の摂理として見せることもありだと思える。そのため、島全体としてゾーニングをして、それぞれ評価し、戦略を立てていく事が必要である。(委員)

→レブンアツモリソウに特化し、多くの関係者と協働する取組みにつながるゾーニングとしたい。(環境省)

(委員) 今後の地球温暖化を想定し、高温耐性株の選抜を検討しても良いのではないかと。

→生態が把握しきれていないため、攪乱の入り方や、どれくらいの密度であれば開花するのか、気候と発芽率の関係等もロードマップに取り入れていただきたい。

(委員)

→播種が成功していない。様々な場所に植えることで、局所的に耐えられるよう工夫することも温暖化に対する手だと思える。(委員)

→これまでの取組みを一度整理した上で、増殖事業として何を優先的に取り組むべきかを明確にしたい。行政ができない部分は研究に期待したい。(環境省)

(委員) レブンアツモリソウが生育する景観自体を保全することも盛り込んでどうか。

→原風景を何とするかについても、ロードマップの検討の中で議論したい。レブンアツモリソウを中心とした礼文島の自然環境を大きな視点で見られれば良い。

(環境省)

(委員) 本事業のゴールがあると良い。

→人手をかけずとも、自然状態で定着して生活史を回せることが最終目標ではないかと。(委員)

→保護増殖事業計画やロードマップにおいても、本種が自然状態でも安定的に存続できることと記載されているため、より具体的に書くこととする。(環境省)

(礼文町) モニタリング手法の定量性について、どこに問題があると考えているのか。現在は、モニタリングサイトを固定した調査や、生育範囲が広い箇所での開花茎数カウントによる統一的なデータ収集をして整っていくのではないかと。新しいドローンを使った手法などあるが、どこに問題点を感じているか伺いたい。委員の皆様には、今のデータ取得方法で足りないと感じることがあれば伺いたい。

→一番は経年変化を知りたい。環境省の調査でも開花数をカウントすることを方針としているが、努力量や数え方等の形が確立できていない。花の数と茎数との関係をどう評価していくのか等、経年変化を見られるデータをとりたい。(環境省)

- 過去の調査履歴も参照できることを加味したモニタリング設計となると良い。(委員)
- 花の数は年次変動があるため、数年での比較は難しい。新しい方法の検討といっても難しいのではないか。(礼文町)
- 生育状況のモニタリングは長期間実施する必要があることから、予算や体制の面からも持続可能な手法や規模を検討する必要があると考えている。(環境省)

※全体を通しての質疑応答

- (礼文町)公開の部で各機関の取組みを紹介するにあたって、もう少し丁寧に説明した方が一般傍聴の方にも伝わりやすいのではないか。
- 次回以降は分かりやすい会議となるよう配慮したい。(環境省)

議事③その他

- (環境省)リーフレットで使用するデータ等は改めて伺いたい。

- (委員)現場を見ていない方もいるので、次回の検討会は現地での開催を検討いただきたい。
- ご期待に沿えるよう事務局で日程調整を含め、検討させていただく。(環境省)